

京都市文化観光資源保護財団

会報

73

NO.

1997. 7. 1

もくじ

—寄稿—

「町家のなりたちと展開」

前京都市文化財保護課技師・工学博士 新谷昭夫 P 2

「町家の保存」

財団法人奈良屋記念杉本家保存会 杉本節子 P 4

—保護財団の活動—

P 5





町家の なりたちと展開

新谷 昭夫

京都の町を描いた数多くの洛中洛外図のなかで、「町田本洛中洛外図」は描写年代がもっとも古く、16世紀はじめころの状況をしめすことで知られているがこれを詳しく見ると2種類の町家が描かれていることに気づく。ひとつは通り土間を片側に配してもういっぽうを居室とする片土間型、もうひとつは通り土間の両側に居室を配した中土間型と呼ばれるものである。ともに居室は2室が多かったようである。

このうち、中土間型のほうは近世にはいと消滅していったのに対して、片土間型は近世の町家へと受けつがれてきた。つまり、居室を通り土間に沿って配し、土間・居室をひとつの屋根（大棟）で覆った、通りにわ形式と呼ばれるものである。この形式では居室は1列または2列に並ぶが、ミセ・ガイドコロ・ザシキの3室を1列に配した1列3室型を基本とする。ミセはその名のとおりに本来的には店の間、ガイドコロは居間と食事場を兼ねるとともに、家の客を

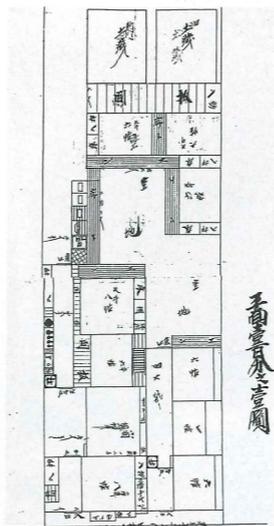


町家の外観

奥のザシキへ通すための上り口ともなるが、簡単な用件の場合はここですませることもある。一番奥のザシキは、通例は正式な接客空間として床・棚・書院といった座敷飾りを備えるとともに、仏壇もこの部屋におかれる。そして、通り土間はミセとガイドコロ境に装置された中戸によって、表よりの店土間と奥の台所土間に二分される。現在残る町家のなかで、もっとも基本的なものである。

さて、この1列3室型から規模を拡大する場合、奥行と間口の2方向が考えられる。まず奥行方向へ規模が拡大されてくると、ガイドコロがもっていた玄関機能が分離されてゲンカンが独立し、1列4室型となる。いっぽう、間口方向へ拡大されると居室が2列に並ぶことになる。この場合、ミセはそのまま2室にわけられるのに対して、奥よりは土間側にゲンカンとガイドコロ、また後列側にはツギノマとザシキを配するのが一般的で、それぞれの居室の機能分化がすすんでくる。

つぎに通りにわ形式で居室が2列4室以上になると、中央部分で採光・通風などの環境条件が悪く



明治末期の町家の屋敷絵図

なる。そこで各室の採光・通風を確保するために、途中に小さな空地が配されるようになる。これが表屋造り形式で、表の店舗棟と奥の居住棟を平屋の玄関棟でむすび、玄関棟の横には玄関庭・中庭が配される。またこの結果、商いと居住の機能が明確に分離されることになる。

この表屋造り形式の成立時期については詳らかではないが、貞享5年（1688）井原西鶴によって著された『日本永代蔵』の一話にはすでにこの名があらわれており、すくなくともこのときすでに成立していたことは確かである。また、西鶴のコメントからその作りはりっぱで華美なものであったことがうかがえ、表屋造り形式の成立の背景には江戸時代前期における町人階層の興隆があったものと考えられる。

ところで、これらの伝統的な町家に対して、近代以降になると新しい形式の町家が建てられるようになる。つまり、通りにわ・表屋造り形式ではともに主屋が表通りに面していたのに対して、表通りには高塀をたてて主屋はその後方に配するというものが現れてきたのである。京都で大塀造りと呼ばれているものである。

この大塀造り形式をもう少し詳しくみると、表通りに面する高塀のほか、①表寄りの部屋は表座敷（または応接間）とし、その奥または横に玄関を配して後方に居住棟を建てる、②上記

の建物のあいだにはオープンスペースとして、門から玄関へのアプローチと表座敷に面して前栽を配する、などの特色をもっている。ここで注目されるのは、これらの特色が通りにわ・表屋造りという伝統的な町家のミセに相当する部分に限定されており、玄関から奥は伝統的な町家となんら変わるところがない点である。すなわち、この住宅は商売あるいは職人の仕事場を兼ねた職住併用住宅ではなく、あきらかに専用住宅として建てられたものであり、したがって



町家の座敷と庭

こうした専用住宅化によって不要となったミセを表座敷に転換するとともに、この表座敷の庭として前栽がつけられ、また高塀が必要とされたというわけである。

京都の町は、その長い歴史のなか

で町家というすぐれた都市型の住居を生み出し、発展させてきた。一見同じようにみえる町家であるが、そこには多くの人が集まって住むためのさまざまな工夫がこらされている。今後、これらの町家を保全していくとともに、町家もっている都市における住まい方の知恵を受け継いでいくことを期待したい。

（前 京都市文化財保護課技師・工学博士）



町家の保存

杉本節子

京都市中に残る商家を「町家」ということが多くなったのは、ここ数十年ばかりのことであろう。暮らしている者にとって、最初それは、馴染みのない言葉であった。私が生まれ育った家屋が「町家」と称されることに慣れたのは、平成二年二月に、京都市有形文化財の指定を受け、さらに四年二月に財団法人を設立して以来、自ら来訪者に、建築的説明をする機会が生じてからのことである。また、バブルと呼ばれた経済状況下での地価高騰のおおききを受け、明治、大正期に建てられた木造住宅が次々と姿を消し、マンションや駐車場へと化してゆく中、その危機的な現状をマスコミが取り上げるようになり「町家」という表現が頻繁に使われ始めた。こういった時代背景が住み手に、「町家」という保存価値を認識させる契機となったのも皮肉で

あるが、「町家」を核とした都市再生の意識が高まり、行政に対して積極性が生まれたことは、評価されるべきことであろう。

当住宅を財団法人の管理のもと維持保存するにあたり、その大きな要因となったのは、文化財指定を受けたことにある。

当家は、寛保三年（1743）「奈良屋」の屋号をもって烏丸四条下りに呉服商を創業し、明和四年（1767）現在地に移った。京呉服を仕入れて関東地方で販売する、いわゆる他国店持京商人として財を築いた。現在の主屋は元治の大火後に再建されたもので、棟札によれば明治三年（1870）に上棟されている。この住宅と、元治の大火で焼け残ったと伝える蔵三棟を、財団法人で守っているわけだが、江戸期以来の本店の構えをよく伝えている町家遺構としての当住宅を、その環境の保全、および活用をはかるとともに、伝承されてきた年中行事、ことに祇園祭「伯牙山」のお飾り所として祇園祭に果たす役割りを継承保存、公開普及につとめ、あわせて町人文化の調査研究を推進して地域の伝統文化の振興、学術文化の発展に寄与することがその目的である。

文化財指定を受け財団化した維持は、確かに理想的な方法であるかもしれないが、その運営は厳しいのが現状である。

会員組織を中心にした活動は主に、年三回の年中行事の公開である。四月の雛飾り、五月の端午の節句を隔

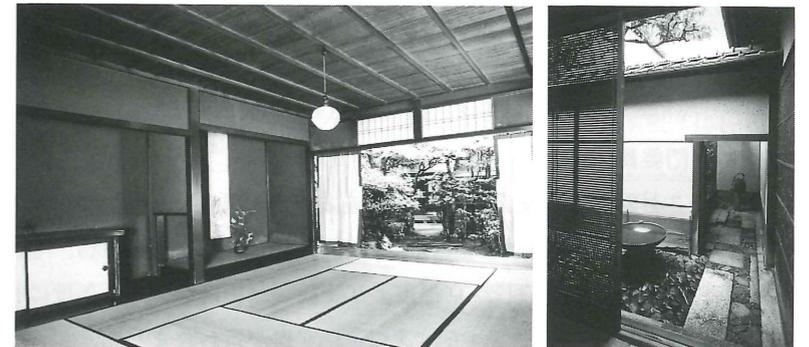


杉本家外観

年で開催、七月祇園祭「伯牙山」お飾り所の一般公開、十月には企画展を行なっている。こういった公開行事の他にも、会員を主にした見学者が多く、その数は年間、二千人を越える。来訪の際、人びとは、昔ながらのたたずまいに感動したと口ぐちに言う。そして、木造の家には自然が感じられるとも……。当住宅が自然に呼応する木造住宅のやさしさを現代人の記憶から呼び戻すきっかけとなる役目を担っていることにも、近頃、気付くようになった。凍結的保存ではなく、これまで営んできた暮らしをそのまま続けながら、建造物を後

世に伝える制度の確立が待たれる。保存するにたるべき価値あるものを見極め、守ってゆくことが、今後、京都という都市が大切に考えてゆかなくてはならない課題ではないだろうか。

（財団法人奈良屋記念杉本家保存会）



座敷

仏間から見た坪庭

普及啓発事業実施報告



「京の歳時記展」の展示風景



「京の郷土芸能まつり」の舞台風景

■文化財特別参観「晩秋の安楽寺」 東山山麓「安楽寺」の秋の特別公開に会員の皆様をご招待いたしましたところ期間中約400名の方々が参加し、ご住職のお話を交え紅葉に映える山門や本堂、仏像などの文化財を觀賞しました。

■第7回京の歳時記展「京都の剣鋒」 去る2月8日～3月2日、京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉）において開催しました。本事業は、京都の民俗文化財をさまざまな視点からとらえ、多くの方々に理解を深めていただくため、毎年開催しています。今回は、京都の祭礼に古くから伝わる祭具である「剣鋒」をテーマに、剣鋒の当家飾りを再現するとともに剣鋒本体や資料、写真パネル、記録ビデオなどを交えて展示し、京都市内に残されている剣鋒を一堂に紹介しました。期間中約1,451名の鑑賞者を迎えました。

■第27回京の郷土芸能まつり「京の四季」祭・まつり 京都のそれぞれの地域の方々のため努力によって守り継がれている郷土芸能を紹介し、保存継承と観光振興を図るため、毎年行っています。今回は、去る3月8日(土)京都都会館第2ホールにおいて、753人の観客を迎えるなか開催し、番匠保存会の「木遣音頭と鉦始め」を含む7演目を一堂に紹介しました。

■第52回理事会評議員会

去る4月15日、都ホテルにおいて第52回理事会評議員会を開催しました。会議では、副理事長の選任、役員の一部異動、平成8年度事業報告並びに収支決算、平成9年度事業計画並びに収支予算案の、4議案が審議され、承認されました。

■役員の変動

山城彬成副理事長（日本鋼管株式会社会長）のご逝去により空席となっていました副理事長に木暮剛平理事（株式会社電通会長）が選任され、次のとおり新役員が就任されました。

新任役員 副理事長 木暮剛平（株式会社電通会長） **退任役員** 評議員 小林正明（前京都市会文教消防委員長）
 評議員 青木善男（京都市会文教消防委員長）
 ” 渡里杉一郎（株式会社東芝相談役）

■史跡専門委員会

去る3月24日(月)に史跡専門委員会を北村四郎委員（京都大学名誉教授）、武居二郎委員（京都芸術短期大学名誉教授）、尼崎博正委員（京都芸術短期大学学長）、寺西章郎委員（文化市民局文化部参事）出席のもと開催し、京都市より受託した史跡などの8年度に行った保存管理の状況報告や9年度の取り組みなどについて審議や意見交換が行われました。

■平成8年度伝統行事芸能功労者表彰式・文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式開催

長年にわたり京都の伝統行事・芸能の保存継承に功績のあった方々と当財団に多額のご寄付を寄せていただいた方々にそれぞれ表彰状・感謝状の贈呈をしているもので、第52回理事会評議員会の席上において榊本京都市長、上山理事長からそれぞれ表彰状・感謝状並びに記念品が受賞者に贈呈されました。受賞者は次の方々です。（順不同・敬称略）

伝統行事芸能功労者表彰 15名

松井秀夫（嵯峨御松明保存会）、鋸屋康夫（花背松上げ保存会）、加藤 威（桂川舟渡し保存会）、荻野孝治郎（神泉苑大念佛狂言講社）、井元 剛（千本ゑんま堂大念佛狂言保存会）、政田光雄（嵯峨大念佛狂言保存会）、海老名寛（嵯峨野六齋念仏保存会）、大川 修（千本六齋会）、藤井国一（西方寺六齋念仏保存会）、佐原彦次（玄武やすらい踊保存会）、藤井精一（上賀茂やすらい踊保存会）、山田捨治郎（松ヶ崎題目踊保存会）、灘 洋一（北白川伝統文化保存会）、中島 清（修学院紅葉音頭保存会）、岡田健志（番匠保存会）

◆文化観光資源保護協力者 2団体・15名

（団体の部） 株式会社一保堂茶舗、株式会社田中長奈良漬店
（個人の部） 鹿島照二、清水谷善海、中埜康子、堀 道夫、清水吉嗣、渡辺清子、栗林幸子、丹治富蔵、脇田 實、上村芳蔵、荒川 昭、安井 正、井田喜智郎、伊藤 昭、船越 滋



❖❖❖❖ 平成8年度 助成事業報告 ❖❖❖❖

助成文化財の紹介

平野神社 扁額三十六歌仙図

当社は、延暦年間（782～806）桓武天皇によって平安遷都に随って大和から遷座した四座を祀る由緒ある神社である。三十六歌仙図は、6面からなり慶安2年（1649）将軍家光によって社殿を建立された際、海北友雪の筆、近衛尚嗣の書になる歌仙扁額が奉納されたといわれ、一方では平松家日記抄によると寛文年間（1661～73）平松時量の寄進になるもので、絵は友雪だが書は近衛基熙（1648～1722）とも伝えられているもので、友雪晩年の作といわれる。長年の奉掛による損傷が著しいため、このたび修復されました。なお当財団からも一部助成をしました。（表紙写真掲載）

平成8年度助成申請のありました文化財の保存修理並びに四大大行事をはじめとする伝統行事芸能の保存執行など保護事業80件に対して、総額6,987万円の助成金を交付しました。低金利により保護基金の運用収益金が激減し、厳しい財政状況のなかですが予算措置をし、例年どおりの取組みを行いました。

四大大行事保存及び執行 対象23件 4,752万円

葵祭行列執行・祇園祭山鉾修理及び行列執行・大文字五山送り火火床整備及び点火執行・時代祭行列執行

文化観光資源保護事業 対象14件 1,157万円

- 建造物の部 5件 350万円
 要法寺 西門解体修理工事・迎稱寺 本堂修理工事・建仁寺 法堂屋根修理工事・称名寺 山門屋根葺替工事・大雄院 方丈（客殿）修理工事
- 美術工芸品の部 3件 152万円
 平野神社 三十六歌仙図扁額修理・檀王法林寺 木造四天王立像（増長天・持国天）修理・本願寺山科別院 書院障壁画修理
- 防災施設の部 3件 210万円
 財冷泉家時雨亭文庫 土蔵（常蔵）屋根葺替工事・仁和寺 防火防災施設改修工事・醍醐

寺 土蔵修理工事

■その他施設整備の部 3件 445万円

財京都古文化保存協会 松毛虫駆除事業・財霊山顕彰会 霊山一帯及び招魂社周辺整備工事・隣華院 山門袖塀、脇塀修理工事

伝統行事芸能の保存及び執行 対象43件 1,078万円

- ◆行事の部 14件 504万円
 嵯峨御松明・賀茂競馬・藤森駟馬・糺の森流鏑馬・鞍馬竹伐り会・花背松上げ・広河原松上げ・雲ヶ畑松上げ・鳥相撲・瑞饋祭・北白川高盛御供・日野裸踊・鞍馬火祭・松尾祭桂川舟渡御の保存と活用
- ◆芸能の部 29件 574万円
 蹴鞠・雅楽・念佛狂言（4件）・六齋念仏（11件）・やすらい花（4件）・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・松ヶ崎題目踊・修学院紅葉音頭・上賀茂紅葉音頭・鉄仙流白川踊・大原八朔踊・上棟祭の保存と活用

募金にご協力いただき
ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）8.7.9～9.1.31

法人及び団体の部

Table listing corporate donors and their contribution amounts, including items like 住友信託銀行京都支店 and 株式会社一保堂茶舗.

個人の部

Table listing individual donors and their contribution amounts, including names like 彦昭幸嗣 and 砂川利彦.

Table listing donors and their contribution amounts, including names like 治一郎 and 正伸徳.

Table listing donors and their contribution amounts, including names like 子み銀明 and 芳き康利.

Table listing donors and their contribution amounts, including names like 子武武 and 道フ君.

※印は、追加寄付の篤志者、なお、編集の都合により今回ご紹介出来ませんでした寄付者の方につきましては、今後順次紹介させていただきますのでご了承下さい。

●●● 平成9年度 事業概要紹介 ●●●

公益法人である当財団も、他の団体と同様に厳しい財政状況にありますが、助成事業、普及事業など、積極的に活動してゆく予定であります。平成9年度の主な事業概要は次のとおりです。

I. 文化観光資源保護事業

- 助 成** 文化観光資源（建造物・美術工芸品）の保存修理・防災施設整備等の保護事業、四人行事・伝統行事・芸能の保存執行に対する助成
- 管 理** 「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」の管理受託及び運営、京都市管理の史跡等15件21か所の保存管理業務の受託
- 調 査** 伝統行事・芸能の実態調査・助成対象文化財の調査・「文遊回廊」調査研究活動の推進など

II. 文化観光資源保護思想の普及事業

- 発 行** 会報・「深泥池」写真集・平成10年版文化財カレンダーなどの発行
- 実 施** 文化財特別公開事業・「文遊回廊—ヒストリカルトレイル—」事業・第8回京の歳時記展の開催・第28回京の郷土芸能まつりの開催・京の三大祭（葵祭・祇園祭・時代祭）の観覧・文化財特別参観・史跡等文化財巡回写真展の開催、インターネットによる国内外への情報発信、伝統行事芸能功労者並びに文化観光資源保護協力者表彰、文化観光資源保護関係団体等がおこなう各種事業の後援など

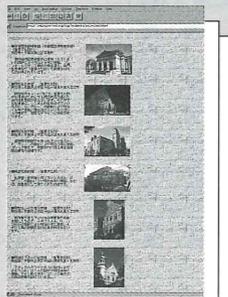
III. 募 金 活 動

- 呼びかけ** 現会員に対する追加募金・普及事業を通じての募金の呼びかけ、信託銀行によるコミュニティトラスト寄付金など

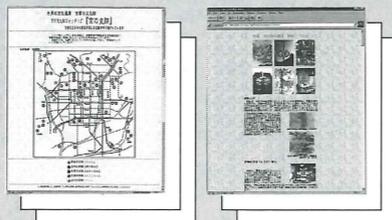
インターネットホームページ案内



京の西洋館



京の史跡



京の剣鋒

当財団では、全国・世界に広く京都の文化財及び事業活動を情報発信するため、『京の文化財ウォッチング』のページでは、「京の西洋館」・「京の史を詳しく紹介しています。又、財団の設立趣旨・事業概要（◆「京の巨樹名木」◆「京の動物」◆「京の自然」）や『京トとのネットワーク、です。その他にも多様

さい。

一財団活動を紹介し、
京都の文化財保護への協力を呼びかけ全世界に発信—
インターネットにホームページを開設しています。現在、『京の文化財』を位置図や写真ですべて網羅し、特集コーナーでは、「京の剣鋒」・募金の呼びかけなども発信しております。今後も、『京の自然遺産』の伝統行事芸能』などの京都の文化財の紹介や、国内外の文化財サイバーチャル文化財のコーナーなど楽しめるページも開設してゆく予定多彩に逐次更新いたしますので、会員の皆様もアクセスしてご利用下
ホームページアドレス <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyobunka>
Eメール kyobunka@mbox.kyoto-inet.or.jp



当財団のインターネットホームページ



全国高等学校総合体育大会「京都総体」開催記念 文遊回廊「京の町家を訪ねて」のご案内

来る8月1日から24日まで全国高等学校総合体育大会「京都総体」が京都府下全域で開催されます。当財団でも開催を記念し、全国から京都を訪れる大勢の方々に京都の優れた文化財を紹介するとともに、文化観光資源保護への協力を広く呼びかけるため文遊回廊事業を実施いたします。

今回は、普段一般に見学出来ない住居とされている伝統的な町家などを特別公開していただき、暮らしのなかで伝えられてきた京都ならではの町家のたたずまいを見学していただくものです。

実施内容は、次のとおりです。

- 日 時** 8月4日(月)～10日(日)
午前10時～午後4時
(但し、正午～午後1時は除く)
- 実施要項** 当会報に同封しております案内状をご持参になり、ご都合の良い日に4カ所いずれかの町家にお越し下さい。各町家の受付で見学券(4カ所見学)と引き換えいたします。各町家の位置、交通など詳しくは、案内状をご覧ください。
- 対 象** キンシ正宗堀野記念館
吉田家住宅
杉本家住宅(6日～10日公開)
秦家住宅

刊行物の案内

『深泥池』写真集を出版予定

深泥池は「深泥池生物群集」として天然記念物に指定されている池で、珍しい浮島と氷河時代からの動植物が生息している池です。当財団では、この池を広く紹介し、文化財保護思想の普及をはかるため刊行いたします。本書は、四季折々に美しい「深泥池」をカラー写真で紹介するとともに、各専門分野の解説も掲載する予定にしています。

「京都市文化財ブックス」新刊のご紹介

武士・天皇・公家・僧侶など京にゆかりのある人物の肖像画を特集した第11集「京都近世の肖像画―市内肖像画調査報告書」



（A4判・カラー・72ページ）と京都市左京区の最北端に位置する久多で用いられた山村生活用具をまとめた第12集「久多の山村生活用具」（A4判・68ページ）が京都市より刊行されています。購入をご希望の方は各1,300円（送料310円必要）で頒布していますので、当財団事務局までお申し込み下さい。

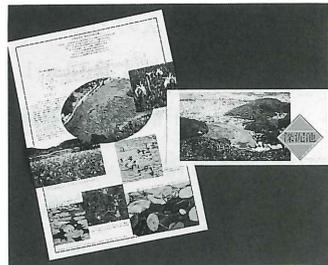
既刊出版物のご紹介

- 京都の六斎念仏 (送料別) ¥3,000
- 京都のやすらい花 " ¥1,500
- 近代京都の名建築

一般料金	"	¥2,000
会員割引	(送料無料)	¥1,800
- 京都市文化財ブックス (送料別)
 - 第7集 『近世の京都画壇―画家と作品―』 ¥1,000
 - 第9集 『京の名勝―その価値と変遷―』 ¥1,300
 - 第10集 『京の古代社寺―京都の式内社と古代寺院―』 ¥1,300

史跡パンフレット配布のお知らせ

京都市が発行しています史跡のパンフレット「名勝 雙ヶ岡」・「史跡 御土居」・「史跡 天皇の杜古墳」の他に、「天然記念物 深泥池」（B4版三折・無料）も保護財団で配布しております。ご希望の方は、希望内容を記入のうえ送料として切手130円分（4種類ともご希望の方は190円分）を同封のうえ保護財団事務局までお申し込み下さい。



「深泥池」パンフレット

編集後記



本号では、京都の町家の文化財保護に努めてこられました新谷昭夫氏と、京都市指定文化財の町家にお住まいの杉本節子氏からそれぞれの町家に関するご寄稿をいただきました。当財団でも夏に町家の特別公開を行います。皆様により多くの文化財に親しんでいただき、さらに理解を深めていただくため様々な啓発事業に、積極的に取り組んで参りますので会員の皆様の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

会報 No.73	1997. 7. 1
会報題字/理事長 上山善紀	
会報表紙/平野神社扁額三十六歌仙図	
編集・発行/財団法人京都市文化観光資源保護財団	
京都市左京区岡崎最勝寺町京都都会館内	
〒606 TEL 075 (752) 0235	
FAX 075 (752) 0236	